

第1回 田名部まちなか再生検討委員会 議事要旨

■議事

1. 組織会について

1) 委員長の選出について

※委員長選出のため、事務局より仮議長として其田委員を指名し、議事を進行。

① 検討委員会設置要項第5条第1項の規定により、委員長は委員の中から互選することとなっている。(其田委員)

→ 北原専門委員を委員長に推薦する。(小川委員)

→ 異議が無く、北原専門委員を委員長とすることで了承された。

2) 委員長の職務を代理する委員の指名について

① 検討委員会設置要項第5条第3項により、委員長の職務を代理する委員を委員長が指名することとなっている。委員長の職務を代理する委員には、其田委員を指名する。(北原委員長)

2. 中心市街地の考え方について

① 設置要項第2条第1項に「むつ市中心市街地田名部地区」とあるが、むつ市の中心市街地としての田名部地区という考え方でいくのか、それともむつ市の中心市街地は田名部地区以外にあると考えるのか。それによって資料の見方も変わってくる。むつ市の中心市街地の一部の田名部地区なのか。(中島常博委員)

→ H21年度に策定した都市計画マスタープランでは、田名部地区を中心商業拠点としている。この部分の賑わいを取り戻そうと今回のエリアマネジメントを実施するが、他の地区についても取り組む意向である。大湊ような他の地区でもやりたいという意向があれば取り組んでいく。(事務局)

→ 田名部地区は商業地域ということで考えていけば良いのか。

むつ市の中心市街地として田名部地区だけを指しているのか、むつ市の中心市街地は大湊地区もあるということなのか。そういう考え方で、田名部地区の再生を考えていくのか。(中島常博委員)

→ 都市計画マスタープランでは、田名部地区を中心商業地区として、大湊はその地区の拠点という位置づけとなっている。(事務局)

→ 極端に言うと、むつ市の中心は田名部地区と考えて良いのか。(中島常博委員)

→ 今回のエリアマネジメントでは、ここをモデル地区として取り組み、他の地区に広げていくことを考えている。(事務局)

→ 「むつ市中心市街地田名部地区」という表現は、むつ市の中心市街地は田名部地区と定義しているように解釈できる。そうではないと思う。むつ市全体の中心市街地としての田名部地区という考え方と、田名部地区だけの再生を目指す考え方とでは変わってくる。(中島常博委員)

→ 旧法に基づく中心市街地活性化基本計画は、田名部地区と大湊地区でつくられている。本来は1地区だが、むつ市は合併していたので2地区となった。今回のエリアマネジメントは旧中心市街地活性化基本計画の田名部地区編という位置づけで考えている。(事務局)

→ この委員会は田名部まちなか再生検討委員会となっている。ところが、途中の定義では「むつ

市中心市街地田名部地区」という表現をしている。市中心市街地の活性化計画であれば、田名部以外のことも考えなければならない。今回は田名部のエリアのマネジメントである。

今まではタウンマネジメントということで、むつ市全体を考えてきた。今回はエリアで、田名部エリアのことを考えていくということだと思う。（北原委員長）

3. 資料の事前送付について

- ① 次の委員会からは、事前にレジュメ的なものももらえれば、勉強して会議に臨むことができる。当日渡されても討論に参加できない。（中島常博委員）
 - 次回からは早めに資料を送って予習させてほしい。（北原委員長）

4. まちなか再生ワークショップについて

- ① まちなか再生ワークショップが中心となっていくと思うが、この検討委員会との関係はどうなるのか。（小川委員）
 - ワークショップは市民に集まっていただき、様々な意見を出してもらおう。それをまとめ上げたものを検討委員会に諮ることになる。上部団体、決定機関と考えてほしい。（事務局）
 - 委員がワークショップに出ても良いのか。（北原委員長）
 - 出ていただいて構わない（事務局）
 - 上と下という考え方はあまり良くないかも知れない。作業をしながら、次の資料になりそうな種を市民の方々と議論するのがワークショップで、それを取りまとめたものを基に議論をしていくのが委員会で、2段階になっていると考えた方が良い。
 - 希望される委員はワークショップに加わっていただきたい。私の研究室の学生もワークショップのお手伝いをさせていただく。
 - ワークショップから出てきたものを、良い悪いではなく、それをどう実現させていくかを検討する会議だと考えてもらった方が良い。（北原委員長）
 - この中でワークショップに必ず出るのは誰になるのか。（小川委員）
 - ワークショップメンバーについて、色々な団体へ事務局から要請しているのか。
 - 各団体、町内会などに打診はしている。今現在、公募している中では10名程度。20名ぐらいで実施したいので、是非参加していただきたい。（事務局）
 - 一般公募の他に、この検討委員会の中から毎回出るのは、恐らく北原委員長と事務局だと思うが、委員会とワークショップの橋渡しをする人が必要ではないか。（小川委員）
 - 市民が議論して積み上がったものを、事務局がしっかりまとめて委員会に出してもらえるはずである。自分が中に入るわけには行かないが、どのような議論をしているのか興味もあるので、出来る限り参加する。私がワークショップを仕切るわけではない。（北原委員長）
 - ワークショップをコーディネートして成果を上げるのをアドバイスするのは誰かと言われれば、我々まちづくり計画設計となる。当社から毎回3人が出て、各グループの進行役、全体の企画運営、提案を行う。
 - エリアマネジメントは、地区内の住民、地権者、事業者が主体的に地区を管理していく、その組織をつくっていくことが目的となっている。民間団体が何か活動をしたいとなれば、積極的に支援していきたい。国も民間団体を直接支援していく仕組みをつくっている。そういう活動をしたい方、している方、又は意欲的な方にワークショップに参加してほしいと考えている。（事務

局)

- 例えば、2次会から参加したい宴会もある。1回目のワークショップには出られなかったけど、興味があって途中から参加したい人もいる。そういう人も参加できるオープンな仕組みにしてほしい。(北原委員長)

5. モデル地区の設定について

① モデル地区の設定だが、なぜここに設定されたのか。(向井委員)

- 田名部中心市街地は非常に広いエリアを指しており、全体を対象としてワークショップなど検討を進めていくと、意見を集約していくのが難しくなる。ある程度限定したエリアで、まずは考えていくのが適当ではないかと考えた。

商店街活性化事業など、田名部駅通りが活発になってきており、またNPOひろばの子育て支援等の活動も、このエリアを中心に行われている。街の駅もできたばかりである。

この田名部駅通りを中心として歩けるぐらいで、その中で田名部川や小川、旧大畑線などの資産がある範囲を、モデル地区として提案した。北側は市道を境に住宅地となり、土地利用も正確が異なるので、ここまでとした。

まずは、このモデル地区で検討し、他の地区へと波及させていきたい。(事務局)

- 田名部駅通りは商店街活性化事業をやっている。他にも再生しなければいけない所もあると思うが、既にやっているところにまたやらなくても良いという考え方もある。(向井委員)

- 国はエリアマネジメントの考え方として、行政を主体として箱物をつくっていく時代ではなくなったとの認識を示している。民間がつくったもの、ソフト活動に対して国が直接支援していく制度も出来てきている。これからは主体的な住民活動が進んでいるところを支援していく形になると思われる。そういう意味では、住民活動など先行的に進んでいる部分がモデル地区にはある。

今回の検討委員会では素案を作り、来年度は地区の住民や事業者が主体となってエリアの中で協議会をつくることを目指している。ある程度活動等の実績があるところがモデルとして適当ではないかということで提案した。(事務局)

- 中心市街地活性化の委員会などは、再開発でお金を投資するなど事業の委員会になる。今回のエリアマネジメントは、地区の人たちが仕組みを作って、どう関わっていくかという事を考えることになる。

国からお金が落ちているところがあるということだが、それに対して地域がどう向き合っていくか。国から入ってきているお金とは別に、地域が自立していくためにどう考えていくか、きちんと組織をつくっていこうというのが、趣旨だと考えてほしい。

ハードの事業だけでなく、地域で空き店舗をどうしようという問題を一緒に考えていかないといけないので、エリアが重なっているということもある。

あまり大きくしてしまうと、協議会をつくるのは難しいということもあり、エリアとして狭い限定した地区になっている。

委員会の後のフォーラムで紹介されるが、大館の中心市街地は役所のある大町と御成町とあって、今は御成町だけで取り組まれている。大町のことを気にしながらも、それが身の丈の大きさと考えている。

モデル地区は、これでまずは始めてみようという大きさだと思う。やっていく中でこれでも大き過ぎるとか、こっち地区も入れようという話になるかも知れない。これで確定するという話で

はないと思う。(北原委員長)

6. 次回委員会について

- ① 次回委員会は12月頃を予定しているが、委員長とも協議し、日程が決まり次第連絡する。
資料についても、できるだけ早めに送付することとする。(事務局)